**ある脱出ゲーム**

 脚本　　小野里　康則

 **登場人物**

 Ａ（男女どちらでも可。Ｂと同じ方がよいか）

 Ｂ（男女どちらでも可。Ａと同じ方がよいか）

 Ｃ（女）

 Ｄ（女）

 Ｅ（男女どちらでも可。Ｂが男であるなら男であるべきか）

 ※初演は全員女で上演しています。一部セリフ回しもそのようになっています。

＊この劇の基本コンセプトについて

　本作品は、キャストの衣装も簡素で中性的なものとし、舞台装置も置きません。劇中に登場する大道具・小道具は、すべてパントマイムで表現するものとします。

ただし、照明効果・音響効果についてはその使用を妨げません。

（しっかり部屋を作り込み、小道具を揃えた公演でも構わないのですが、それだとおそらく本作品の面白みは半減するのではないでしょうか。）

＊「リアル脱出ゲーム」という言葉は、（株）ＳＣＲＡＰの登録商標だそうです。したがって、本作品では用いていません。

 １

（幕が上がると、何もない舞台。）

ばらばらに立っている四人（Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ）

きょろきょろと辺りを見回したり、準備運動的な動きをしたり、いずれにしてもお互いの動向をなんとなく探り合っている様子。

Ｃがそのへんにあるものに手を伸ばしてちょっと動かそうとする。

Ａ （Ｃ）あ、それフライングじゃありません？

Ｃ （びくっとして）ええ！？　……ちょっと触ってみただけじゃない。

慌てて手を引っ込めるＣ。

Ｅの声（天井スピーカからの放送といった感じ）が響き渡る。

Ｅ(声) ようこそ、「絶望の館」へ。今宵皆さんに体験していただくのは、命を賭けたギリギリの駆け引きです。この中で無事この部屋から脱出できるのはたったの一名のみ！　そして見事脱出できたその方には、賞金１００万円をプレゼントいたします。さあ、果たして、この中のどなたが、その権利を獲得できるのでしょうか。

お互いの顔を見合う四人。

Ａ （Ｂと目が合い）どうも。（ぺこり）

Ｂ （Ａと目が合い）お手柔らかにお願いします。（ぺこり）

Ｃ （Ｄに）ねえ、初めて？　あなた初めて？

Ｄ （Ｃに）え、あの……これは、初めてです。

Ｃ あたしも初めて！

Ｅ(声) さて。ルールについてですが……ルールといっても、あってないようなものです。要するに、日本の法律に触れない範囲のことであれば、何をしていただいても結構。皆さんの知力、体力、強運を駆使して見事この部屋から脱出してください。

Ｃ あの。聞こえてますか？

Ｅ(声) はい？

Ａ あ、聞こえてるんだ。

Ｂ 録音かと思った。

Ｃ 脱出できるのは、一人だけなんですか。

Ｅ(声) そうなりますね。

Ｃ あの。ちょっと意味がよくわからないんですけど。最初に謎を解いて一番に脱出できた人が勝ちっていうんじゃなくて、ほんとに一人しか脱出できないってことですか？

Ｂ （Ｃに）何ばかなこと言ってるんです（か––––）

Ｅ(声) そうなりますね。

全員 ええーーーーーっ？

Ｄ ……じゃあ、あとの三人はどうなるんでしょうか。

Ｅ(声) 出られません。これは、命を賭けたチャレンジですから。

Ａ そんな！　困ります！

Ｅ(声) そのあたりについては、同意書に目を通した上で、サインもしていただいております。だからこそ、皆さんをこの部屋にお連れしたわけで。もうゲームは始まっているのです。

Ｃ 同意書なんて、そんなにしっかり読んだりしないよお……。

Ｄ それじゃ、もう、すでにここからは出られないってことですか。（ため息）

四人、自分たちが入ってきた引き戸（舞台前方上手寄りにあるとする）に目をやる。

Ａが戸に近づき、ガタガタと引いてみる。当然開かない。

Ｅ(声) では、ご健闘を祈ります。

Ａ あのですねえ。

Ｂ もしもし？　もしもーし！

しばしの静寂。

Ａ 行っちゃったみたいですね。

Ｃ どうしよう。ほんとに閉じ込められちゃった。

Ｄ 出られるのは、一人だけ……。

息をのむ四人。だが、

Ｂ （Ｃに）いやー、そんなわけないでしょう。きっと、勝者が決まったら、そのあと負け組の人たちをスタッフが迎えに来てくれるとか、そういう感じなんですよ。

Ｃ まあ、そうよねえ。

Ａ なかなか、本格的な演出じゃないですか。燃えてきた！

Ｂ どうします？　私たち、……利害がぶつかるいわば敵同士ってことですよね。

Ａ そうですよ。それぞれ、単独で行動すべきですよね。

Ｃ やっぱり？

Ａ なんたって、１００万円かかってますからね。

Ｄ うーん……。

Ｂ それじゃ、誰が勝っても恨みっこなし！　ということで、さっそく始めますか。

Ａ こういうの、慣れてるんですか？

Ｂ え、まあ。前にも一度やったことがあります。ここのじゃないですけど。

Ｃ そうなんだ。

Ａ そっかあ。これは強敵だ！

Ｄ 私たち、何をすればいいんですか？

Ｃ 「脱出」に決まってるじゃない。

Ｄ そうなんですけど。だから、何をどうやったらいいのかなって。

Ａ じゃあ聞きますけど、あなた、ここへ何しに来たんですか？

Ｄ え……それは、その……。

Ｂ ここから脱出する方法を探すんですよ。

Ａ どこかに謎が仕込んであって、それを一番先に解いた人が勝ちってことです。

Ｃ テレビで見たこともないわけ？　わかんないわー。あたし、あなたがなんで今ここにいるのかわかんないですけど。

Ａ （Ｃに）そりゃあなた、１００万円でしょ？

Ｄ いえ、あの……。

Ａ 違うの？

Ｃ （Ａに）あなたはそうなのね。

Ａ （Ｃに）え？　そりゃ、そうですよ。皆さんだって、そうなんでしょ！

Ｂ （Ｄに）改めて確認しますが、私達はこの部屋に隠された謎を解いて、ここから出なければならないっていうのは、わかってるんですね？

Ｄ あ、はい……。

Ｃ しかも、脱出できるのはこの中のたった一人なんでしょ？　（Ｄに）だったらなおさら、いちいち教えてあげるわけないじゃないの。あたし達は、敵同士！　どうすればいいかなんて、自分で考えなさい！

Ｄ ……すみません。

Ｂ まあ、ほんとの敵ってわけじゃないんだから、和やかにいきましょうよ。ゲームですよ、ゲーム。さっきも言ったように、誰が勝っても恨みっこなしってことで、みんなで今ここにある危機的状況を楽しむんです。賞金は、いわば、おまけです。

Ａ その通り！

Ｃ （Ａに向かって小声で）ウソばっか。

Ａ よーし、勝ちに行きますよ！　さ、皆さんも動いて動いて！

Ａが、さっそくあちこちを（当てもなく）探し始める。

残りの三人も、目的のものがなにかもわからぬまま、何かを探し始める。

……やがて暗転。

※この部分を使って、部屋の中に何が置かれているかざっと観客に伝える。

無言のパントマイムである必要はない。脚本として決定的な流れは指定はしないが、エチュードなどを経て適宜台詞や効果音を補うとよい。（もちろん、不自然な挙動や無粋な説明セリフのオンパレードでは興ざめ。そのあたりは自然な所作、セリフを工夫しよう。）

伝えるべき要素は次の通り。

四人は今、それほど広くはない、部屋（四角い空間）の中にいる。

舞台前中央上手寄りに、引き戸の扉。これはびくとも動かない。自分たちがこの扉から部屋に入ってきたのはわかっている。

上手やや奥に、大きなスーツケースがひとつ。非常に重くて、ちょっとやそっとでは持ち上げられそうにない。カギがかかっているので蓋は開けられない。カギは、見当たらない。

舞台奥下手側には扉があり、その奥はトイレ（個室）となっている。

中央付近に、２ｍはあろうかという、長ーい鉄棒が転がっている。かなりの重さだが、丈夫そうだ。

あとは、特に何もない。イス、机などもない。窓もない。（あってもよいのだが、便利に使えそうなのに結局使わないものがあると、むしろ違和感が出るのではないか。例えばイスがあるのに座らないし、その上に昇って上を調べもしない……とかだと。）

（例として）

 Ａ、真っ先に気になっていたドアへ走り、開ける。

Ａ なんだ、トイレか。

 片足を入れてひとしきり見渡すが、すぐ出てくる。

 Ｃ、鉄棒を調べる。持ち上げようとするがけっこう重い。

Ｃ （Ｂに）手伝ってもらえます？

Ｂ いいですよ。

 ひとしきり鉄棒自体を調べると、二人でそれを使ってあちこちつついてみる。

 Ｄはスーツケースを調べる。重くて持ち上がらないし、カギがかかっている。

Ｄ カギがないと開きませんね。

 ＢとＣの鉄棒（見ている方向と反対側）がＤを突いてしまう。

Ｂ はっ、ごめんなさい！

Ｄ 大丈夫です、大丈夫です。

Ｃ （戻ってきたＡに）あそこ何？

Ａ トイレですね。特段何もなし。

 Ｃ、トイレに行き開ける。

Ａ 何もないって言ってるのに！

 壁、床を片っ端からコツコッツと叩き始めるＢ。

Ａ そこまでする？

 といいつつ、Ａ、Ｂのマネをしてコツコツやり始める……

（ここまで）

（台本で指定した空間のおおよそのイメージです。）

 ２

舞台が明るくなると、車座になって座り込み、深刻そうにしている四人がいる。

やがて。

Ｂ おかしい。

Ｂを見る三人。

Ａ やっぱり？

Ｃ おかしいわよねえ。

Ｄ おかしいですか……やっぱり。

Ｂ なんっ、にも、ないですね。

Ｃ ま、何もってわけでもないけど。（鉄の棒に触れてみる）

Ａ 鉄ですか？

Ｃ 多分……。（折り曲げようとしてみたりするが、丈夫。そして重い）

Ａ それ、いかにもアイテムって感じですよね。

Ｃ 思わせぶりよね～。

Ｄ それをどうにかすると出られるんですか？

三人 （一斉にＤをにらむ）

Ｄ 自分で考えます……。

Ｂ こういうゲームって、やっぱりゲームなんですから、参加者が必ず勝てるようにっていうか、楽しめるようにっていうか、ねえ。いかにもーって感じのヒントとか、アイテムとかがそれなりにあって、必ず見つかるようにうまく仕込まれてるはずだと、思うんですよ。

Ａ はずでしょうねえ。

Ｄ そういうもんですか。

Ｂ そういうもんです。であるならば、どうしてちっとも見つからないんですかね。

Ｃ あたしたちがバカだからわかんないんじゃない？

Ｂ そんなことない！　私はバカじゃない！

Ｃ あっそ。

Ｂ あ……いや、別に自分が頭いいとか言ってるんじゃないんですけど、ものすごい天才とかじゃないと解けないゲームじゃ、多くの人が楽しめないじゃないですか。だから、こういうゲームって、平均的な頭脳の持ち主で解ける程度の謎じゃないと、商売としても成立しないはずなんです。

Ａ まー、誰にもクリアできないゲームなら、お金出してやろうなんて、思ったりはしないわねー。

Ｃ あの、でもあたし、今回、料金とか払ってなーい。

Ｄ あたしもです。

Ａ 私も。

Ｂ もちろん、私もです。

お互い、顔を見合わす（間）。

Ｃ ていうかこれ、商売なの？

Ａ そうじゃないんですか？

Ｂ そうじゃなきゃ、この部屋をこしらえた人は、まったくのボランティア精神で私達をこんなにも楽しませてくれて、賞金までくれるって？　そんなお人好し、いないでしょ。

Ｄ （小声）楽しくなんか……。

Ａ 今回、優勝者には高額賞金まであるわけでしょう？　そのお金は、どっから出てるの。

Ｂ 参加者からお金を取らなくったって、いくらでもビジネスは成立します。

Ｃ え？　どうやって？

Ｂ それはわかりませんが、例えば、実はこの部屋の様子がどこかでテレビ放送されてるってことなどがあるかもしれない。その放映権が売買されてるとかね。

Ｃ えーっ、あたしたち見られてるの？！

Ｂ だからわかりませんけど。

Ａ 少なくとも、運営の人は私達を見てるでしょ。事故などがあっても困りますからね。

Ｂ その通り。

Ｄ どこかにカメラがあるってことですよね。

Ｃ やだー。さっきあたし鼻ほじっちゃったわよ。

四人、いやそうな表情であたりを見回す。

Ｃ （てきとうに天井の方に向かって）ちょっとー、あんたたち見てんのー？　やーらしーわねえ。

Ｂ 話を戻しますが、私は、自分をまあ平均ぐらいの頭脳の持ち主だとは思うんですよ。みなさんだってそうでしょ？

Ｃ あたしバカだよ。

Ｄ わたしも……。

Ｂ （イラッ）謙遜とかいいから。そういうの入ると話が長くなるだけだから！

Ｃ やだコワイ。何怒ってんのよ。

Ｂ 怒ってませんよ！

Ａ まあまあまあ。

Ｂ ふう、すみません。さて、落ち着いてもう一度よく考えてみましょう。巷にあふれるこの手のゲームって、制限時間も１０分～３０分ほどのものが多いし、たいていは、時間制限さえなければ小中学生レベルでも解けるみたいな謎なんですよ。私たちぐらいの者が寄ってたかってこれだけ探してみても、ヒントとかアイテムとか見つからないってことは……このゲーム、実は相当やっかいなシロモノかもしれませんよ。

Ｃ ここに入ってから、何分くらいたった？

Ｄ どうでしょう。（部屋を見渡して）時計もないし。

Ａ 携帯も取り上げられちゃってるからなあ。

Ｂ 何分なんてもんじゃなくて、一時間や二時間たってるんじゃないですかね。

Ｃ あたし夜は夜で予定あるのに！

Ｂ 誰だってあります。

Ｃ 何よその言い方！

Ａ まあまあまあまあ。

Ｄ わたしたち、このまま出られなかったらどうしよう……。

Ａ まさか……。

Ｂ 少なくとも一人は絶対出られます。案内者がそう言っている以上、そういうふうになるような道筋は、この部屋のどこかに絶対隠されてるはずです。

Ａ じゃあ、あとの三人は？

Ｃ だから、一番が決まったら、出してもらえるんでしょ。

Ｂ 普通はね。

Ｄ 普通、じゃないとすれば？

Ｂ え？

思わずＤを見る三人。静寂……あまり考えたくないことを、考えるそれぞれ。

Ｃ （元気を出して）あたしはね、（スーツケースを指さして）あのカバンが絶対怪しいと思うのよ。開かないし、重いし。

Ｂ 誰だって思います。

Ｃ 何よその言い方！

Ａ まあまあまあまあまあ。

Ｂ （Ａに）律儀な仲裁、ありがとうございます。（スーツケースの鍵穴を見て）相当小さなカギですよねえ。こんなもんどこにだって隠せてしまう。

Ｃ じゃあほかに手がかりがあるっていうの？

Ｂ 確かに……。

Ａ このままじゃ埒があかない。どうです？　敵同士ってのはひとまず置いといて、ここはひとつ全員で協力してこのカギを探すってのはどう？　で、このカバンが開いて、中に大ヒントが入ってたりした場合は、それはみんなでシェアするということで。

Ｂ そうですねえ。

Ｄ それがもし、たった一つしかないような大事な物だった時は？

思わずＤを見る三人。静寂……。

Ｄ だから、中に入っていたものが結局一人にしか使えないような物だったとしたら、それは誰が使うことになるんですか？

Ａ それは……。

Ｃ もう！　そうなったらなったで、その時考えればいいのよ！

Ｂ 私もその意見に賛成です。とにかく、今はこれを開けることに全力を注ぐべきです。

Ｄ わかりました。

Ｂ （Ａに）いいですね？

Ａ え、ええ。

Ｂ それでは、今度はみんなで協力的に。カギが見つかったら隠さずに必ず他の人に知らせること。みなさんそれでいいですね。いきましょう。

Ａ 仕切るねえ。

Ｃ 経験者様ですものねー。（動き出す）

思い思いに、小さなカギを探し始める四人。

それなりに協力しあい、鉄の棒を使って高い所を探ったり、重いカバンを改めて持ち上げてみたりする（が、ほとんど動かない）。だが、カギは見つからない……。

※この部分の扱いについては、第一場の最後と同じです。

（例です）

Ｂ、Ｄとにかくカバンを持ち上げようとするが無理。

Ａは部屋の隅から隅をひっかく。

Ｃはトイレのドアノブをガチャガチャやったりしてその付近でしばらく探すが、天井に向かって話しかける。

Ｃ ね～、ヒントとか無いんですか～。ヒントほし～な～（色目）。

Ａ なにやってんの。

Ｃ いや、聞いてるかなって。

Ａ 男が聞いてるとは限らないでしょ。

 Ｄは壁を丹念に調べている。Ａと背中どうしでぶつかる。

Ａ わっ！

Ｄ は、ごめんなさい！

 床を這いずり回って見ているＢが踏まれる。

Ｂ むぎゅっ！

すでに探し飽きているＣは、しばらく鉄棒をもてあそんでいたが、やがて無駄に部屋をぐるぐる回り、爆発寸前……

（ここまで）

 ３

ガマンの限界を超えるＣ（もちろん他の三人も）。

Ｃ あーもう！　カギなんてないわ。ない！

Ｂ おかしい！　絶対におかしい！

Ｃ 経験者さまがおっしゃるんじゃと思って聞いてたけど、よく考えてみたらカギがあるはずっていう前提だってなーんの根拠もないじゃない。

Ｂ そりゃそうですけど、こういうものにはセオリーっていうか、「だいたいこうでしょ」みたいなもんがあるでしょうに。それを言ったまでです。

Ｃ え、開き直り？

Ａ まあまあまあまあまあまあ。

Ｃ なにがまーまーよ！　カギに集中しようって言ったのあんたでしょ。おかげでとんだ時間の無駄しちゃったわよ！

Ａ えーっ、私が悪いっていうんですか？

Ｃ 別に悪いなんて言ってないじゃない！　あたしはバカなんだから、バカじゃないあなた達がしっかりしてくれなきゃ、ここから出られないじゃないって話をしてんのよ！

Ａ うわ。あんたこそなにその開き直り、ずるいじゃない！

おろおろしながら三人の話を聞いていたＤが倒れる。

Ｃ あ。

Ｂ ちょっと、しっかりして。大丈夫？

Ｄ、Ｃに抱き起こされる。

Ｄ すみません……。大丈夫です。ちょっと気分が悪くなっただけです。

Ｂ 確かにここは空気が悪い。

Ｃ なんか蒸し暑いしね。お水飲む？

Ａ 飲み水なんてどこにあるの。あるのはトイレの水くらい。

Ｃ そうねえ。じゃ、せめて冷やしましょう。ねえ、スタッフの人に連絡した方がよくない？

Ｄ リタイアしろっていうんですか？　イヤです！

Ｃ 熱中症とか、バカにしちゃいけないのよ。

Ｄ 大丈夫ですから。ふう……。

Ｂ 無理しない方がいいですよ。

Ｄ でも、わたし、出たい……。

Ａ え、……けっこう本気な？

Ｃ じゃあさ、せめて冷やしましょ。（Ａにハンカチを渡し）これ、お水に浸してきてください。

Ａ ＯＫ。

Ａ、ハンカチに水をしみこませるべく、トイレに行く。

Ｃは手際よくＤを介抱する。

Ｂ 慣れてますね。

Ｃ ま、しょっちゅうやってますんで。

Ｂ へー、あなた、看護師さんか何か？

Ａがトイレのドアを開けて入る。

Ｂ、涼しげな空気の流れに気づく。

Ｂ ……ん？　換気扇が回るからかな。トイレを開けると涼しい空気が入ってくる感じがしますね。

Ｃ そういえば、そうね。

Ａは、トイレの水（タンクに落ちる方ね）をハンカチにしみこませ、トイレから出てきて戻ってくる。

Ａ はい。（Ｃに手渡す）

Ｃ、Ｄの顔をぬぐってやる。

Ｄ すみません。

Ｃ なんだか洒落にならないことになっちゃったね。

Ｄ、なんとか自分で座る。

Ｂ 今回は、やめにしたらどうです？　あ、決してライバルを減らしたいとか、そういうつもりで言ったんじゃないですけど。

Ｄ でも、たった一日で１００万円手に入れることができるんです……。

Ａ １００万、必要なの？

Ｄ （小さくうなずく）

Ａ みんな、そのために来たんでしょ。

Ｃ そりゃまあそうだけど。正直、体壊してまで欲しくはないわ。

Ｄ 体壊すまでそれこそ馬車馬みたいに働いて、ようやく年収１００万って人もいるんです。

Ａ ワープアってやつですか。あなたもそんな感じ？

Ｄ （うつむく）

Ａ あ……（しまった、という表情をする）あの……ま、まあ、今回に関しては、楽して１００万稼ごうなんて思ってた私達が甘かったってことですよ。ねえ。

Ｃ やっぱ甘くなかったわねー。

Ｂ （Ｄに）どうして１００万いるのか、聞いていいですか？

Ｄ それは……。

Ｃ ダメ！

Ｂ え？

Ｃ 聞きたくない。

Ｂ 別にいいじゃないですか。

Ｃ もし聞いちゃって、ああ、この人には１００万ほんとに必要なんだなあって思っちゃったりしたら、あたし、やだもん。

Ａ そこは私も賛成。（Ｂに）あなたはもしかしたら、このゲームを純粋に楽しんでるのかもしれない。パズルを解くみたいにね。だから、事情によっては（Ｄを指して）この人に勝ちを譲ったっていいとか思ってるんじゃない？　でも、私は私で、それなりの思いでここにいるわけで。だから、ほかの人の事情は正直知りたくないです。

Ｂ なるほど……そうかもしれません。わかりました。ではお互い、事情の詮索はなしってことにしましょう。

Ｃ そ、誰が勝っても恨みっこなし。（Ｄ）ね。

Ｄ すみません。

Ｃ さっきから謝ってばっかり。そんなんじゃいつまでたっても勝てないわよ！

Ｄ （みるみる涙目になる）

Ｃ えー？　冗談よ、冗談。やだ、あたしなんだか悪い人みたいじゃない。

Ａ （Ｄに）大丈夫、みんなおんなじなんだから。もう少し冷やす？

Ｄ もう、大丈夫です。ありがとうございました。

Ａ それにしても、ほんとに蒸すわ。じゃ、私も顔拭こう。

濡らしたハンカチをＤから受け取るＡ。そのままトイレに行こうとする。

Ｃ （Ａに）ねえ、トイレ、涼しかった？

Ａ いやー、そうでもなかったけど？　ここと同じ。蒸し暑い上に、臭うし。

Ｂ トイレのドアを開けると、涼しい風が吹き込んできたもので、てっきりトイレは涼しいのかと。

Ｃ なーんだ。涼みにいこうかと思ったのに。じゃあ、さっきの風はどこから来たのかな？

Ｂ お、これはもしかして、「謎」かも知れませんよ！

Ｂ、トイレに近づく。

トイレに近づいたＢ。ドアを開けてみる。

Ｂ、トイレのドア付近から中をのぞき込む。

Ａ 何かわかりましたか？

Ｂ （中をのぞいて）うーん。臭うな。

Ｃ なになに？　手がかりがあった？

Ｂ いや、単にクサイです。全然涼しくないですね。

Ａ でしょ？

Ｃ 紛らわしい言い方しないでよ！

Ｂ、トイレに一歩、二歩踏み込んでみる。

すると。

Ｃ あ！　ほら。（涼しい風を感じた）

Ａ あー。来た来た。（同じく）

Ｂ こっちは何も変わらないぞ？

Ｃ つまりこれ、トイレからじゃないってことね。

Ｂ、トイレから出る。

Ａ、Ｃは風を感じなくなる。

Ｃ （Ｂに）あ、待って！　やんだ。

Ｂ え？　入ると換気扇が回るのかな？

Ｂは再びトイレへ。天井を見上げる。

Ｃ 来た来た来た！

Ｂ ここの空気は動いてない。

Ａ じゃあどこから？

Ａ、人差し指をぺろっとなめてから突き立て、風向きを調べる。

Ｃ なにやってんの。

Ａ え、やらない？

Ｄ 後ろの方から、来ます。（指をさす）

三人、姿勢を低くして背後にある扉（つまりは舞台前側）の方を見る。

Ｂ （トイレから）どうしたんです？

Ａ （仕掛けに気付く）扉が、ちょっとだけ開いてます！

Ｂ ほんとですか！（トイレを飛び出す）

Ｃ あ、閉まった！

Ｂ え？

Ａ これは！

Ａ、Ｂと入れ替わってトイレの前に立つ。

Ａ いいですか？　みなさん。

Ａは、ゆっくりとトイレを出入りする。

すると、Ａがトイレの床を踏んでいる時、扉が少しだけ開き、トイレから出ると、また扉が閉じることがわかる。

何回か確かめるＡ。それを見つめる三人。

（※Ａの動きに合わせて、扉が開閉される様子をしっかり表現できるよう、工夫しよう。）

Ｂ なるほど！（Ａに交代してトイレに入って）どれくらい開きます？

三人、おそるおそる扉に近づく。

Ｃ そうねえ、指二本ってところね。

Ａ これじゃあとてもじゃないけど、身体はすり抜けられないね。

Ｄ はあ。（隙間に向かって呼吸して）空気がおいしい。

Ａ でも、とりあえず指のとっかかりができた。ちょっと引いてみますね。

Ｃ あたしも。

Ｄ （ふらふらと）わたしも。

三人とで隙間に指をかけて扉を開こうとするが、ビクともしない。

Ｂ じゃ、私も。

Ｂがトイレから出ると、扉が閉まる。

三人 わーーーーーーーーーっ！

慌てて手を引っ込める三人。

Ｂ はい？

Ａ あんた、私達の指をつぶす気か！

Ｂ （理解して）わ、すみません。

Ｃ まったくもう！

Ｂ いやでも、大きな前進です！　ひとつわかるとね、アイディアがどんどん浮かんできますよ！　トイレの床が重みを感じると扉が開く仕掛けか……今度はもっと大人数で入ってみましょう。重みが加わると、もっと開くかもしれない。

Ａ なるほどねえ。やりましょう。

Ａ、トイレに近づく。

Ｃ じゃ、あたしどれくらい開くか見てるね。

Ａ それはだめよ。

Ｃ なんでよ。

Ａ もし、私とこの方（Ｂ）とでトイレに入った時、それが条件を満たすのに充分な重さ？　重さなのかどうかわからないけど、人が一人通れるだけ開いたらどうなります？

Ｃ どうなるって？

Ａ あなた、出るでしょ。

Ｃ う……。そ、そんなこと思ってもみなかったわよ。

Ａ （Ｄに）あなたは？

Ｄ （ぎくっとした表情になるも）……そこまで考えてませんでした……。

Ａ いや出るでしょ。……開いている扉を目にしたら、私だったら出ます。この部屋から一番に脱出したことになり、その時点で勝利者になります。賞金１００万円も手にすることが出来るんですから。

Ｂ でも、みんなで協力してって、約束したじゃないですか。

Ａ それ、カギについては、ってことでしょ。

Ｂ それはそうですが……。

Ａ とにかく、皆さんがどれだけ善人揃いなのかは知りませんけど、私は、そういうことも考えつく人間なんです。それを黙ってて、他の方にトイレを頼んでもよかったんです。でも、私は正直に告白しました。……これは、私なりの良心だと思ってください。

三人 ……。

Ｂ （Ａに）あなた、正直な方ですね。敬意を表します。

Ｃ だったら、どうすればいいのよ。

Ｂ みんなでトイレに入りましょ。

Ｃ なんかその言い方いやー。

四人してトイレに近づく。

Ｂ 言い出しっぺですからね。私がまず入ります。もう一人入ってください。後の方は、できるだけトイレのそばにいつつ、扉をよく見ててください。

Ｃ わかったわよ。じゃ、あたしが入るわ。（Ａ、Ｄに）抜け駆けはなしね！

Ｂ、Ｃトイレに入る。

扉が開く。指四本くらいか。

Ａ おー。さっきより開いた気がします。

Ｄ そうですね。

Ａ じゃ、私も。

Ａがトイレに入る。狭そうに場所をあけるＢ、Ｃ。

扉がさらに広がる。

Ｄ ああ、広がりました。確かに広がってます。

Ｂ どうです？　通れそうですか？

Ｄ えーと……ここからじゃ、よくわかりません。でも、だめみたい。

Ａ どうします？

Ｂ うーん。

Ｃ 交代してよ。あたしが見るから。絶対に出ない。約束する。

Ａ 信用できませんね。

Ｃ どうしてよ。

Ａ どうしてって。信用できる根拠がない。

Ｃ そんなこと言ったらあんただって信用できないわ。ていうか、（Ｄを指して）あの人だったら信用できるわけ？！

Ａ 信用してないから、そばにいてもらってるんじゃないの！！

Ｂ そんな身もふたもない言い方しなくても。

Ｃ なんか引っかかるわあ！　「いてもらってる」とか、やっぱりこの人のことは信用モードで、あたしは疑われモードって感じじゃない？！

Ｄ あの、わたし入りますから、どなたか見てください。

Ｂ ちょっと！　狭い所で怒鳴らないでください。なんでこんな所に閉じこもって言い争いしてなきゃならないんです。ね、まずは出ましょうよ。

Ａ う、そうですね。出ましょ。

Ｃ うー。

全員出てくる。

Ｂ ええと、（Ｄに）確かに広がったんですね？　じゃ、こうします。人が通れるくらいまで広がったかどうか、遠くからわかるように、印を置きます。その鉄の棒（の先端部分）を、この辺にどうですか。

Ｂが、扉の手前に鉄棒を置く。先端が、これくらいなら人がすり抜けられるかなというくらいの幅を指し示す。

Ｂ 扉がここを通過したら、通れる幅だということで。これならけっこう遠くからでもわかるでしょ。

Ａ あなた、やっぱり頭いいわ。

Ｃ ちょっと狭くない？

Ｂ そうですか？　じゃ、これくらい。（鉄棒を動かす）

Ｃ （示された幅を見て）ま、これならあたしは通れるけど、（Ａに）あなたどうかしらね。（ニヤニヤ）

Ａ 失礼な。十分通れます！

Ｂ じゃ、これでいいですね。（Ｄに）あなた、私達に疑われないくらい充分遠い距離から、扉をしっかり見ててください。

Ｄ はい。

三人が、順番にトイレに入る。

扉が三度動き、鉄棒が指し示す幅のやや手前で止まる。

Ｄ ああ……惜しい。ちょっと足りないです。

Ｂ なるほどー。

三人出てくる。（扉は閉まる）

Ａ これは、どういうことだと思いますか。

Ｂ 流れ的には、四人が入れば、一人分の隙間が出来る、ということじゃないですかね。

Ｃ 四人入らないとそうならないんじゃ、誰も出られないってことよ。

Ｂ そうですね。

Ｃ 意味ないじゃなーい！

Ｂ でも、今の所、手がかりはこれしかないんですから、この線で行くところまで行きましょう。

Ｄ 四人で床を踏んでいないと扉は広がらない。

Ａ 扉を広げているためには、トイレに籠もっていなければならない。

Ｃ あーあ、あと一人いれば、少なくとも一人は出られるのになー。

Ｂ そうなったらそうなったで、今度は誰が出るかで揉めるのは明らかですけどねえ……。

Ａ ……重ければ、人間じゃなくてもいいんですかね。

Ａを見る三人。

Ｃ あの鉄棒？

Ｂ いや、さすがにあれだと軽すぎませんか？

Ｃ ちょっとでも、足しになるならその方がいいじゃない。

Ａ となると、やっぱり（カバンに目をやる）あれか。

三人 ああ、ねえ。

スーツケースの前に集まる四人。

Ｂ 確かにこれなら重さは充分だ。

Ｃ そら充分でしょうけど、さっき全然持ち上がらなかったじゃない。

Ｄ まるで、鉄の塊に取っ手が付いてるような感じですよね。

Ａ 四人がかりで持ち上げれば、あっちまで運べるんじゃないですかね。

Ｂ 試してみる価値はあります。やりましょう。

四人がかりでスーツケースを運ぼうとするが、手のかけ所がないので思うように力が加えられない。

Ｂ （鉄棒を指して）これ、取っ手に通してみましょう。

Ｃ 通る？

全員で協力して、取っ手に鉄棒を通してみる。

Ａ おー、通る通る。

前後二人ずつで持ち上げ、ゆっくりとだがトイレの床まで運ぶことができた。

四人 ふーーーーーーーーーっ。

一人分よりやや多めに扉が開く。

四人 （満足げに）おお～。

Ｃ 手がいたいー。

Ｂ さて、私とあなた（Ｃ）とあなた（Ａ）でもう一度入りましょう。（Ｄに）見ててください。

Ｄ はい。

三人、トイレに籠もる。

扉が滑るように開き、一人が充分通れるくらいの幅ができる。

Ｄ あ……開いた……開いた！

Ｄ、思わず扉へ走り寄ろうとする。

それを見た三人が反射的にトイレから飛び出してＤに飛びかかり、引きずり倒してしまう。

（扉はもちろん、カバン一つ分まで狭まる。）

Ｄ ぐっ！

三人 ああ！

Ｄを助け起こす三人。

Ａ ごめんなさい。私……。

Ｄ 大丈夫です。

Ｃ あなたを疑ってたわけじゃないのよ。でも、つい、その、勢いで。

Ｄ あの……本当に大丈夫ですから。

Ｄ、よろよろと立ち上がり、力なく笑う。

Ｂと目が合う。思わず視線をそらすＤ。

Ｄ ……私なんかが信頼されるわけないって、わかってますから。

Ａ ほんとにそういうんじゃなくて。反射的だったの。あなただから疑ったとかじゃなくて、こういう状況なんだから、誰が見る番だったとしても、同じことしちゃったわ、きっと。

Ｃ あたしなんか、見る係すらさせてもらえないんだから。

Ａ それ別段フォローになってないって。

Ｄ みなさんどうか、お気になさらずに。（頭を下げる）

しばしいやな時間が流れる。

 ４

それぞれに考えこんでいる四人。やがて。

Ｂ みなさん。

顔を向ける三人。

Ｂ 事態は、新しい展開を迎えました。私達は今、この中の誰か一人が、一人だけがこの部屋から出て行くことができる方法を見つけたのです。

Ａ わかってますよ、言われなくったって。

Ｃ あたしだってバカだけど、それくらいわかるー。

Ｄ 「一人しか脱出できない」って、こういうことだったんですね……。

Ｂ だったら話が早い。どうしますか？

Ｃ あんたが仕切ればいいじゃない。

Ｂ じゃあ皆さんが重しになっていただく係で、わたしが脱出する係ってことで、いいですか？

Ｃ ちょっと！　なに調子に乗ってんのよ！　そんなのダメに決まってんでしょ。

Ａ いくらなんでもそれはのめません。（Ｄに）ねえ。

Ｄ はあ……。

Ｂ じゃあ、どうしますか？

Ｃ じゃんけんとかくじ引きとか？

Ｂ 運任せで恨みっこなしということですね。

Ａ そんな！　私どうしても１００万円必要なんです。

Ｃ それは誰だって同じなのよ！

Ｄ では、この中で、今一番１００万円が必要な方に脱出してもらうのはいかがですか。

Ｃ そんなの誰が決めるのよ。

Ｄ ですから、それぞれの事情を話していただいて、皆さんが納得した方に。

Ｃ なによ、あなたその事情とやらに自信があったりするわけ？　お母さんの手術代とか、そういう系？　そういうのやめようって言ってるじゃないの。誰が勝っても恨みっこなしって、決めたじゃない。

Ｂ 今回の問題は、誰か一人が脱出するためには、他の三人の協力が必要だってことなんです。協力者はすなわち自分が勝利者になることを諦めなければならない。なんてイヤらしい謎なんでしょう！

Ａ 私は自分から降りるなんてしませんから。真っ向勝負を希望です。

Ｃ 望むところよ。

Ｂ だったら、何で勝負するっていうんですか。

Ａ 強い者が勝つ！　どうです、これで文句なしですよ！

Ａ、Ｃにつかみかかる。

Ｃ キャーッ。

Ｂ やめなさい！

Ａ 勝たなきゃだめなんですよ！

Ｃ やだ！　やめて！

Ａ なんだかんだ言ったってこの世は弱肉強食なんです。強い者が勝つし、勝った者が正義なんです。（Ｂに）あんた、どんだけ賢いかわからないけど、話し合いになればば、きっと自分が勝てるとか思ってるんでしょ。他の人言いくるめられるって、思ってんでしょ。

Ｂ そんなこと別に。

Ａ 話し合ったら負けるってわかってるなら、話し合いに乗る意味なんてないんですよ！　どんなにきれいな負けでも、負けは負けなんだから！　だから、私が勝つためには、私の勝てる方法で勝ちにいくしかないんだ！

Ｂ そうは言っても、ルールの中で戦わなきゃだめでしょ！

Ａ ルールって何だよ。私達、何の説明も受けてない！　だったら何でもありじゃない！

Ｃ （苦しそうに）日本の法律の範囲内で行動するルールよ！

Ｂ そうです、あなたのやってることは暴力行為だ。法に触れてる。

Ａ 力ずくで人に言うこと聞かせといて法律で罰せられてない人なんか、この世にごまんといるじゃないの！

Ｂ だ　か　ら！

Ｂ、ＡとＣを引き離しにかかる。

Ａ、今度はＢにつかみかかる。

Ｂ、あっという間にＡを組み伏せる。

Ａ ぐっ！

静寂。

ＤがＣに駆け寄る。

Ｄ 大丈夫ですか？

Ｃ うー、大丈夫じゃないわよ……。でも、大丈夫。

Ｂ だから、力で何かを通そうとする人は、いつか結局、より強い力に負けるんです！

Ｂ、Ａがもう抵抗しないことを理解し、手をはなす。

Ｃ あんた、何者？

Ｂ 子供の頃、ちょっとそれらしいことをやってたことがあるだけですよ。あなた方素人相手ならごまかせる程度です。

Ａ （突っ伏したまま）悔しい……。理屈でも勝てない力でも勝てない。私の勝ち目なんて、もうないじゃない……。

Ｃ あたしだって無理だ。降りるわー。（Ｄに）ねえ、今日はこの人の勝ちってことにしてさ、さっさとこんな所出ましょうよ。いいわね？

Ｄ あたしは……。

Ｃ なによー。あんた（Ｂを指して）この人にかなうと思ってんの？

Ｄ もう、負けたくないんです。

Ｃ 「もう」って？

Ｂ （Ｄを制して）私に、提案があります。

三人 （Ｂを見る）

Ｂ 私をここから出る役にしてください。

三人 （それぞれにはっとしたり、うつむくなどのリアクション）

Ｂ この脱出は、皆さん全員の協力がないと不可能なことがわかりました。このゲームは、誰が勝った負けたじゃなくて、私達全員が勝つか負けるかの勝負なんです。だから、もし勝利があるとしたら、それは私達全員の勝利です。

Ｃ あっ、そ。

Ａ ごたいそうな言い訳はいいですよ。

Ｄ ……。

Ｂ だから私は、ここから出してもらって手に入る１００万円を、一人２５万ずつ山分けにしたいと思うのです。いかがでしょう。

三人 え……。

Ｂ 皆さんそれぞれに事情がおありとお見受けします。私だってもらえるならもらいたい。でも、一人２５万で手を打って、全員の力でここから出ませんか。

Ａ でも、全員で、っていったって出られるのは一人なんですよ。

Ｂ ゲーム・オーバーになりさえすれば、皆さん解放されるはずです。ゲームを終わらせるためには、とにかく一人の勝利者が必要なんです。

Ａ でもそれが、あなたである必要もまた、ないですよね。

Ｂ そうですね。あなただっていいと思います。ただ、あなたはさっき、話し合いではなく、力で問題を解決しようとした。他の方の賛同は得られそうですか？

Ａ それは……。

Ｃ あたしだっていいのよね。

Ｂ ええもちろん。あなたには、他の三人の信頼が取り付けられますか？

Ｃ う……。

Ｄ わたしでも……。

Ｂ 私ね、疑ってるわけではないのだけど、さっきあなただけは、「降りる」って言わなかったのね。それはそれで別にいいとは思うんですが……とにかくあなたは、言わなかった。

Ａ 確かにそうだなあ。あなた、一番未練が残っていそうだった。

Ｂ さっき、一瞬扉が開ききった時、あなた、本気で出てゆこうとしましたよね。

Ｃ え、そうなの？

Ｄ うう……。

Ｂ 全員がこの話に乗ると誓い合うなら、出て行くのは誰だっていいんですよ。でも、じゃあそれを誰にするかっていう相談を始めたら、結局また堂々巡りになります。だから、提案者の私に行かせてください。皆さんがそれを承認してくださったら、私は私で、皆さんに必ず２５万ずつお分けすると、約束します。

Ａ あなただったらその約束を守るって保証は？

三人、Ｂを見つめる。

Ｂ 残念ながら、ありません。今ここにあるのは私の身体と、私の口にする言葉だけです。あなた方は、あなた方の目の前に見える私の姿と、あなた方の耳に聞こえる私の言葉だけで、私のことを判断するしかないのです。

Ｄ 何の保証もないのに、信じろって、いうんですか？

Ｃ そんなの、わかんないよ！

Ａ あなたが出て行きたいなら、私達を倒すなり殺すなりしてトイレにぶちこんで、扉を開ければいいじゃないですか。

Ｂ それじゃあ、だめなんです。私は、あなた方に託されて、ここを出なければならないんです！

しばらく考え込んでいる三人。

だが、やがて。

Ａ わかりました。あなたを信じます。

Ｃ あたしも。

Ｄ ……わたしも。

Ｂ （顔がほころび、）よかった。じゃ、お願いします。

Ａ、Ｃ、Ｄがトイレに入る。

扉が一人分の幅（以上）開き、Ｂが部屋の外へ出た。

音楽が鳴りわたる（ファンファーレ的な感じの）。

やはり、がっかりした表情になる三人。

Ｂが、足元に一本の小さなカギを見つける。

Ｂ あ。これ……。皆さん、カギです。

三人がトイレから出てくる。

（出入り口の幅は、ひとり分には足りないまで狭まる。）

Ｃ カバンのカギ？

Ｂ 多分。

Ａ そんな所にあったんだ！

Ｄ どんなに部屋を探しても見つからなかったわけですね。

Ａは、扉の隙間から手を出して、Ｂからカギを受け取る。

急いでカギを回して、スーツケースを開ける。

Ａ 開いた！

のぞき込む三人。

中には、大量の重りとともに、一丁の拳銃と、一枚の紙切れが入っていた。

Ａ なによ……これ。

Ｃ （拳銃をおそるおそる手に持ち）重い。……これって、本物？

Ｂ 何が入ってたんです？

Ｄ （紙を手に取り読む）「次のゲームは、『明日に向かって撃て』」？？？

 ５

手を叩きながら、ＥがＢの目の前に登場する。

Ｅ おめでとうございます！　あなたが今回の勝利者です。

Ｂ ど、どうも。

Ｅ いやあ、実におみごとでした。もちろん、オッズでもあなたが本命中の本命でしたから、結果については大方の予想通りではありますが……。

Ａ （扉越しに）じゃ、ゲームは終わったんだからもういいでしょ。ここから出して！

Ｃ （同じく、拳銃を手に）これ、どういうことよ！

Ｅ （Ｃに）気をつけた方がいいですよ？　それ、本物ですからね。実弾も入ってます。

Ｃ げーっ！

Ｃ、慌ててＡかＤに拳銃を渡そうとする。もちろん二人とも受け取らない。

Ｅ 次のゲームで使うものなんですから、無駄遣いしない方がいいですよ。

Ａ 次の？！

Ｂ 三人をここから出してください。

Ｅ 私、説明しましたよね。「脱出できるのは一人」だって。だから、お出しすることは出来ません。

Ｂ そんなバカな！

Ｅ そういう契約ですから。同意書にサインしたのは、あなた方ですよ。今回勝利できなかった方には、次の敗者復活ゲームに挑戦していただきます。（扉越しに、Ｄに）ね。そうですよね。

ＡとＣ、Ｄを見る。

Ａ （おそるおそる）そうなの？

Ｄ ……そうです。

Ｃ 初めてだって、言ってたじゃない。

Ｄ 前のゲームは別のシステムでした。この形は、初めてだったんです。

Ｅ それにしても、お三方ともご無事で元気だったなんて、私どもにも嬉しい誤算でした。誰一人けがをすることも死ぬこともなくクリアしたグループは久しぶりですよ。たいていは、お一方くらいはね……。新しい方を補充しなくてすみます。ありがたいことです。

Ｂ この人達はどうなるんですか？

Ｅ ですから、勝利者になれば１００万円を手にして出てゆくことができます。それまでは、せいぜい身体に気をつけてがんばり続けるしかありません。さ、あなたにはこれを。

Ｅ、Ｂに封筒を渡す。

Ｅ とっておいてください。あなたには、ここで起きたことを口外しないという誓約書も書いていただきます。この手のゲームは、なんといってもネタバレが一番興ざめですからね。

Ｂ 口止め料ってことですか。……私はこれを、みんなで分けると約束しました。

Ｅ すばらしい。でも、無理なものは無理です。あなたがお納めください。

Ｂ、扉を挟んで三人と向き合う。

（※Ｂが背中向きとなり、顔の表情が見えない方がよい）

Ｂ （三人に向かって）みなさん、もう一度、扉を開けてください。

Ｄ まさか、戻ってくるんですか？

Ａ もういいよ。せめてあなただけでもここから脱出して。

Ｃ あたし達、２５万もらったって出られないんじゃ意味がないから。

Ｂ さあ、みなさんトイレに入って。さっき私がうっかりやっちゃったみたいに、途中で出ちゃいやですよ。指を挟んじゃ痛いですからね。

Ｂの指は、Ｅの方を向いている。

Ｂの顔（※客席には後頭部が見える）を見て、はっとする三人。

三人、トイレに入る。

扉が開く。

ＢがすばやくＥを捕まえ、一緒に扉をくぐる。

Ｂ 今だ！

Ａ、Ｃがトイレから飛び出す。

扉に挟まるＥ。

Ｅ うわあああああっ！

Ａ、Ｂ、Ｃの三人はＤを向く。

Ｂ あなたも、出てもいいんですよ。

Ｅ そんなことしたら、つぶれてしまう。

Ｄ わたし……。

Ｄ、トイレを出かかるが、やめる。

Ｂ それが正解です。

Ａ、Ｂ、ＣがＥの所につめよる。

Ｃから銃を受け取ったＢが銃口をＥの頭に突きつける。

Ｂ （Ｅに）扉を、開けてくれますね。できるんでしょ？

Ｅ、ポケットから携帯を取り出し、仲間に連絡を取って扉を開けさせる。

四人、Ｅに銃口を向けたまま立ち位置を入れ替え、部屋の外へ出る。

Ｅ （Ｂに）もったいないと思いますけどね。

Ｂ いいんです。（三人に）行きましょう。

Ｂ、手に持った拳銃を地面に置いてゆこうとする。

Ａがそれを制する。

（Ｂは銃を持ったまま）四人、そのまま走り去る。

見送るＥ。

再び携帯電話を取り出し、話し始める。

Ｅ あ、私です。次のゲームが開始しました。プレイヤーは当初の予定を変更し、４人ということでお願いします。……はい、……はい。オッズの修正は、５分後に発表ということでいいですか。……そうですね、お客様がたには、それまで少々待っていただくようお知らせ下さい。……では。

携帯をしまうＥ。

遠くで銃声がする（四人の去った方向から）。

その音の方を向くＥ。

音楽の高まりとともに　––––幕––––。

上演記録

平成26年４月　平成26年中毛地区春季演劇祭（伊勢崎清明高校）

上演の際のお問い合わせ先

小野里　康則

E-mail： zaco2k@hotmail.com

群馬の高校演劇